



第1519号
2018年
12月5日
定価1部300円
定期購読
半年 5400円
1年 10000円
振替番号
00140-5-95121

日本労働党中央委員会
発行所
労働新聞社
編集発行人
高橋 信
本社 〒102-0072
東京都千代田区飯田橋4丁目
1-5 ボザール飯田橋2階
電話 03-3265-6506(代)
FAX 03-3265-6507

北海道支社 〒001-0022
札幌市北区北22条西5丁目
1-13
電話 011-600-3232

関西支社 〒532-0011
大阪市淀川区西中島5-8-29
チサン第3新大坂501号
電話 06-6586-9920

九州支社 〒812-0042
福岡市博多区豊1-3-8-302
電話 092-483-1344

労働党ホームページ
http://japanlabor.party/
Eメールアドレス
shinbun@japanlabor.party

主な記事

- 解説/入管法改悪案は全労働者への攻撃……………2面
- 解説/ロシア・ウクライナがまたも緊張……………3面
- 東京/一九けんり春闘発足……………4面
- 辺野古への土砂投入策動許すな……………5面

福岡 労働党緊急時局演説会が成功

階級闘争が激化する時代に



上：参加者に熱烈に訴える大隈鉄二・党中央委員会議長（12月2日、福岡市）
下：講演に聞き入る参加者（同）

日本労働党九州地方委員会、福岡県委員会の主催による「資本主義は末期 迫る破局」と題する緊急時局演説会が十二月二日、福岡市で開かれた。

会場には多くの支持者、友人、党員が詰め掛けた。司会は、九州地方委員会の平石義則同志が務めた。登壇した大隈議長は、まず、中央に続いて緊急に演説会を開いた理由に触れた。

大隈鉄二議長は、世界的情勢が津波が押し寄せるような勢いで変わっており、従来の前提条件が次々と崩れていると指摘し、政党として、現状と見通しについて緊急に訴えずにはいられないと述べた。

直近の事態として、アジア太平洋経済協力会議（APEC）など東アジアでの一連の会議、二十九国・地域（G20）首脳会議、米中首脳会談などを取り上げた。

とくに、十月のベンス米副大統領演説について、大隈議長は「米国は中国の登場を阻止しよう」と「宣戦布告した」と評価。単なる貿易戦争ではなく、戦争を含む危険な状況であると述べた。さらに大隈議長は、二〇一八年の新春講演会で「米中関係はこの五年が焦点」と述べたことを振り返りつつ、情勢は厳しさを増さないか」と提起した。

続いて、こんにちの情勢を「より歴史的、より本質的に見る必要がある」と話を進めた。「より歴史的とは、静止の観点ではなく動的観点、弁証法の観点で見るといふことだ。より本質的とは観念的ではなく、事実に基づき、あるいは唯物論的に見るといふことだ」と、観点の問題について述べた。

具体例として、第一次と第二次世界大戦の戦間期の例をあげ、連続性やつながりの中での見ることの重要性を指摘した。

次に、情勢分析の際には、まず、経済に目を付ける必要がある、そうしてこそ問題の本質を見ることが可能だと述べた。

大隈議長は、技術革新は資本主義の生産様式を救わ

ず、逆に危機を深め、資本主義の没落を早めると指摘し、「資本主義はいよいよ末期にきた」と喝破した。

最後に大隈議長は、激しい階級闘争の時代に入りつつあると指摘、生産手段を誰が握るかの最終的な階級闘争が闘われる時代、先進国であっても内戦に至らざるを得ない時代であると述べた。対して、現在の議会主義政党は状況を理解しておらず、立ち後れていると厳しく指摘した。

その上で、「危機は逃げず、我々が手遅れになることはない」と述べ、敵もこの生産様式をどう維持できるか分からない状況であり、先進的労働者が気づかざるを得ない時期が到来し、労働者階級は遅かれ早かれ立ち上がると、確信を込めて訴えた。

参加者からは、「労働者・人民はもっと緊迫感を持たなければならぬ」と思った。「自分たちがどんな時代に生きているのか、世界がどうなるか」といふのが分かった気がする」となどの感想が寄せられた。

参加者を激励し、以降の闘いを誓い合う演説会となった。

(W)

緊急出版

ブックレット

「資本主義は末期 迫る破局

いかに闘うべきか」

日本労働党時局演説会における大隈鉄二議長講演

1000円

(内容の詳細は8面)